編輯室內外

長期戰覺悟の前には總ての事、統制の要がある。卽ち統制會の進展の如き洵に慶すべきことである。其例を擧げんに鐵鋼統制會は四一社一工業組合、石炭統制會は二三社七統制組合、鑛山統制會は三五社五統制組合、セメント統制會は二〇社、車輛統制會は九〇社、自動車統制會は六社、精密機械統制會は五一六社、電氣機械統制會は二四五社、産業機械統制會は六三四社、金屬工業統制會は二六社六工業組合二統制組合、貿易統制會は八三社九〇組合、造船統制會は一五社、鐵道軌道統制會は二八五社で、今日國家の必要が産業經濟の總力を戰爭遂行といふ唯一の焦點に集中し、其最高度の發揚を圖るにありて其國家要請に應へることを使命とする統制會が、斯も進展したることは當該産業の綜合的統制運營上其實績を擧ぐることであらう。

○官公吏の優遇問題が解決せられ或は解決せられんとすることは、官公吏の任務が益々重大を加へ、加ふるに、減員の爲に一層其仕事の繁多を來たすが故に官公吏を優遇することは至極結構なことである。併し國家事業乃至國家の要請に基いての事業に從ふ國民の優遇方法は如何にすべきか、やゝもすれば私利追及亡者の本性を現はすものゝ如くきめてかゝるやうな空氣の裡では國民の優遇などは考へられないかも知れぬが、國民が國家に盡す機能の極めて大なることを認め、その能力と良心との充分具はり居るべきを認め、これに充分に活動の機會を與ふるといふことが眞に國民を愛するの道であり、國民を優遇するの法であることが諒解せられねばならぬ。國民を輕蔑し不信することは此際反省せねばならぬと寔によき時の言葉である。

○生活科學の貧困さを嘆ずるものがある。寔に然りである。日常生活を科學することが決して難問題ではない、自ら耕し、自ら紡ぎ、自ら建てて衣食住の自力自足を計つた原始人の生き方を現代に其儘移すことではないが、夫れを現代の文化敎養に依つて敎育し新らしい時代に卽應して自分のことは自分で始末することがあらねばならぬ。之れが生活を科學することに外ならぬ。例へば物を毀損せず可成保存し得る樣工夫すること、物を無駄にせぬこと、物の小破は自ら修繕すること、徒らに他人をわづらはせぬこと等々である。今日の人は餘りに他人に依存する癖がある。之を愼しみ戒めねばならぬ。

○學校教育の普及は日本が第一等である。夫れで知識階層の尤も多いのも亦日本である。これらの知識階層は國家の有用の材であつて、これを全的に活用するならば國利民福の上にもたらす貢獻は蓋し甚大であると河野密氏は言ふ寔に左樣であらう。官僚獨善、官界新體制の聲があるか、之れは民閒の智能を活用せざるに在るのは一面の視方ではあるが、必しも官界に起用せよと河野氏は論ずるのではなからう。とにかく民閒事業に年齢健康等の關係から適材適所主義を講じ、所謂野に遺賢なからしむることに努力せよと云ふのであらう。贊せざるを得ない。

○印度をして印度人の印度たらしめよ、英國今や天鷲絨の手袋をかなぐり捨てゝ掩ふ所なき獸的暴力を以て全印度を支配して居る。宗教の自由、言論の自由、不足なき自由、恐怖なき自由は何處に求めて得らるべきか、自由を得るまでは鬪ふべきである。印度は英や米の印度ではなく印度人の印度である。英米と戰へる國は凡て印度の味方である。努めよ戰へよ。

○塵紙が一人一ケ月に百枚づつの割當を以て配給せらるゝと聞き女性は塵紙の多量消費者であるに鑑み、斯る配給方法を案出した事務官、課長、局長は女性を知らず母もなく妻もなく妹もなき孤獨の生活を營む一群であるではなからうかと心配したが、配給中止と聞きてホッと一安心した。（洸）

（停）
定價 一部 五十錢
一ケ年分 金六圓

發行所 東京市麴町區霞關一丁目內務省內
社團法人 道路改良會
電話銀座（57）〇四二七
振替貯金口座番號一九〇一六

編輯者 發行者 東京市赤坂區氷川町一七 平井良成

東京市小石川區諏訪町五六
印刷所（東京）株式會社 常磐印刷所

印刷者 奈良直一

日本出版文化協會會員番號二二〇〇四五